


「DXラボ」の取り組み概要

- 香川大学はDX推進組織としてDX推進研究センターを設置
- DX推進研究センターに、DX推進の実行組織として、学生中心のDX推進プロジェクトチーム「DXラボ」を設置
- 「DXラボ」は、業務UX調査、業務改善アイデアソン、業務システム内製開発、業務データ分析、システム開発/データ分析ハンズオンなど香川大学のDX推進に資する活動を実施
- 他大学や自治体、民間企業向けの人材育成プログラム「KadaiDX塾」など、「DXラボ」の活動は学外にも広がっている
- 内製業務システムを学内外で利用してもらうべく、ソリューションカタログサイト「カダソリューション/KadaSolutions」を構築
- DXラボの活動を踏まえた業務システム内製開発を対象とした書籍「業務システム内製開発 応用編」を2025年8月に出版予定

香川大学のDX推進に向けた取り組み

①業務UX調査

業務の抱える課題をユーザの視点で調査

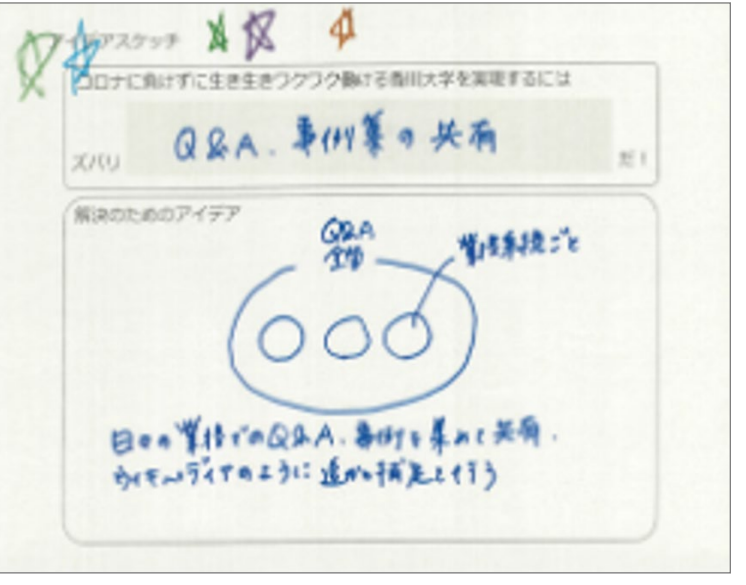


デザイン思考
共創
BMI

上司や先輩が残っていると帰りにくい…

②業務改善アイデアソン

業務を改善するアイデアを創出




デザイン思考
共創
データ駆動

縦割りで業務知識が分散している！

③業務システム内製開発

業務システムを内製で開発

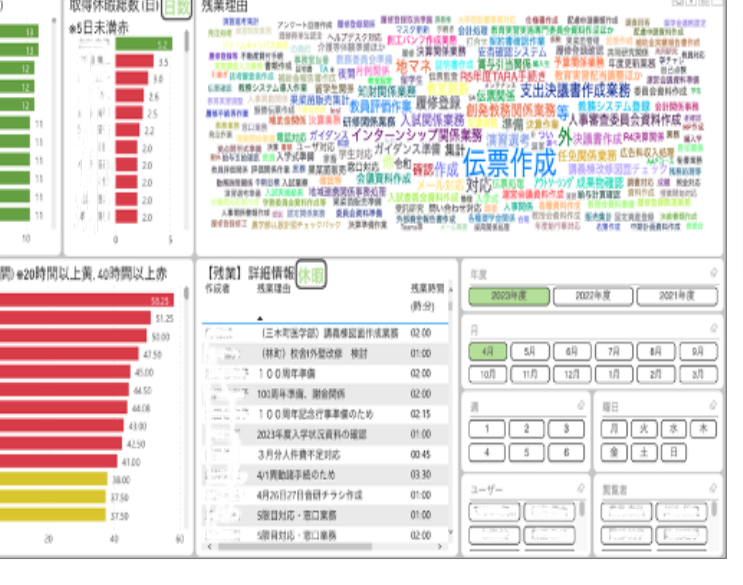


デザイン思考
共創
データ駆動

自分達が本当に欲しいシステム開発ができる！

④業務データ分析

業務システムで得られたデータを分析

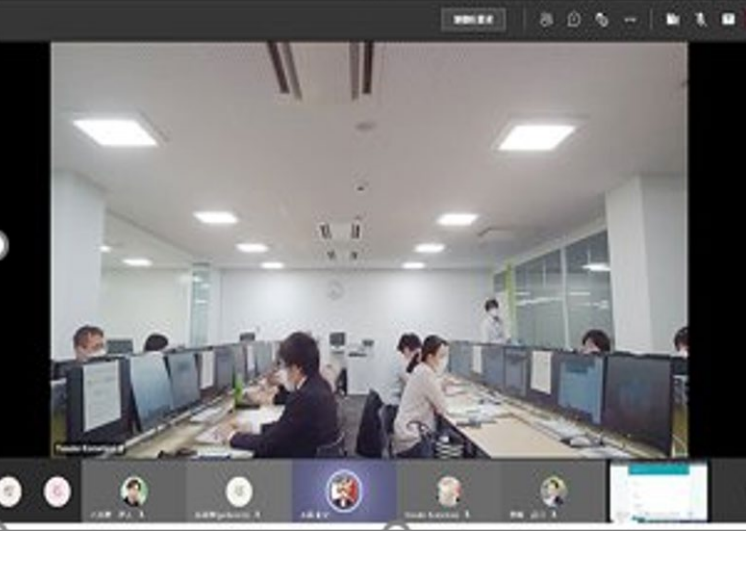


データ駆動
BMI

データに基づく大学経営！

⑤システム開発/データ分析ハンズオン

業務システムを開発できるスキルを獲得



デザイン思考
共創
データ駆動
BMI

自分達で開発できそうぞ！

業務システム内製開発／業務データ分析の取り組み

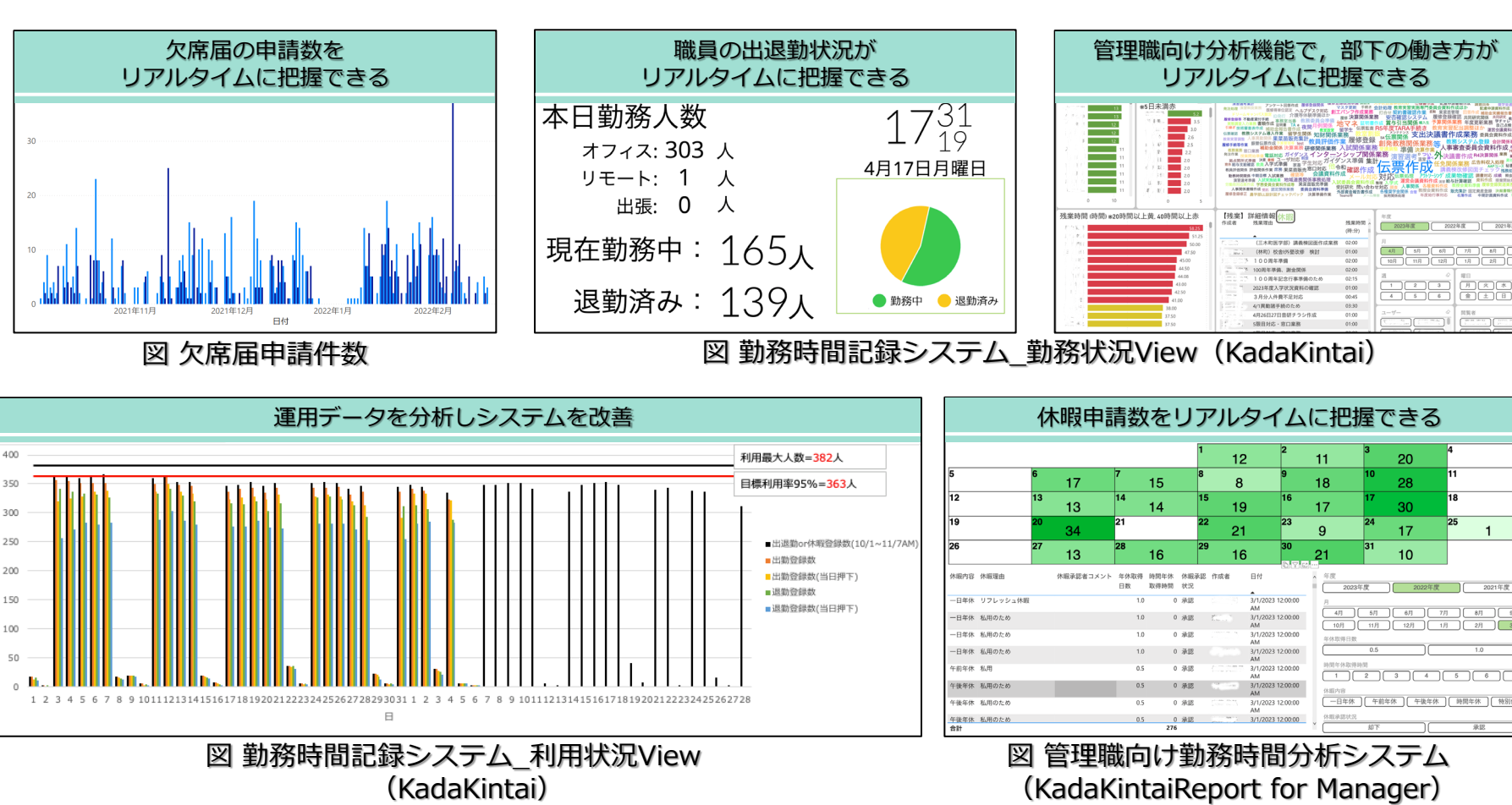
DXラボの実績（2021年5月～2024年12月）



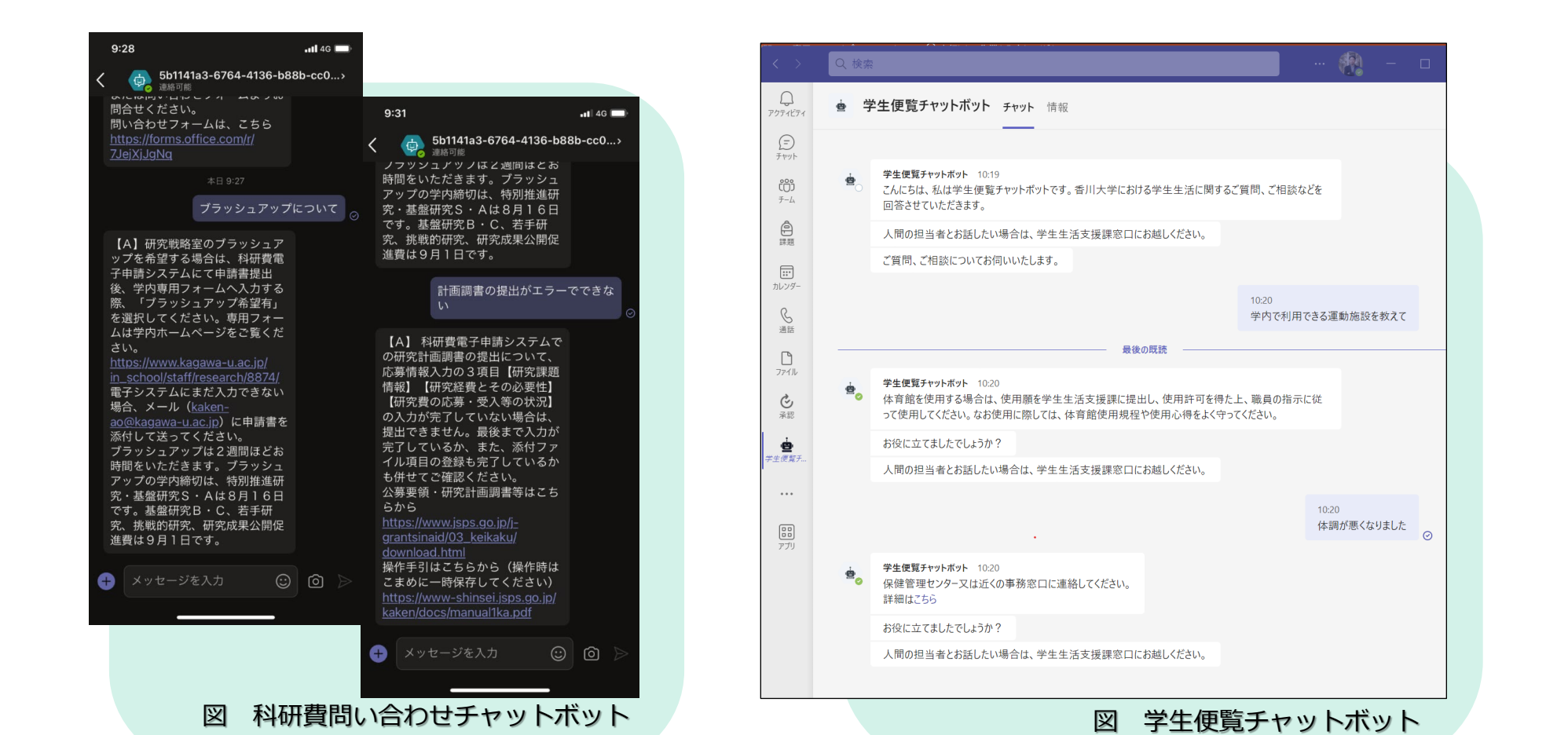
最近では「東の東北大」「西の香川大」との呼び声も高い



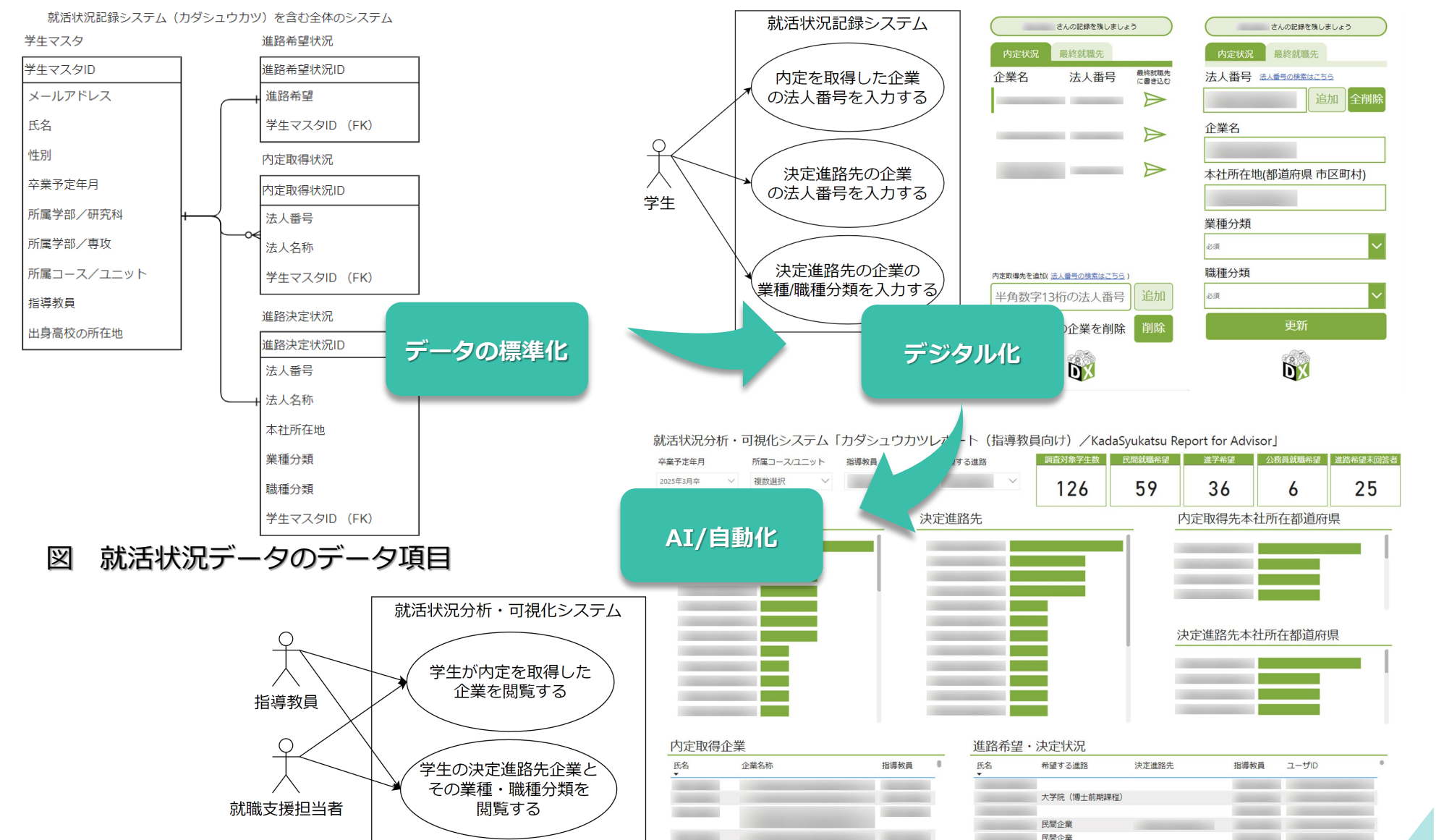
学生スタッフがわずか1週間で開発



データに基づく大学運営・大学経営の実践
運用データからシステムの改善につなげる (DevOps, CI/CD)



業務のナレッジデータベースとしての役割も担う



データを標準化することで、精度の高く活用できる分析が可能

地域のDX推進に向けた取り組み

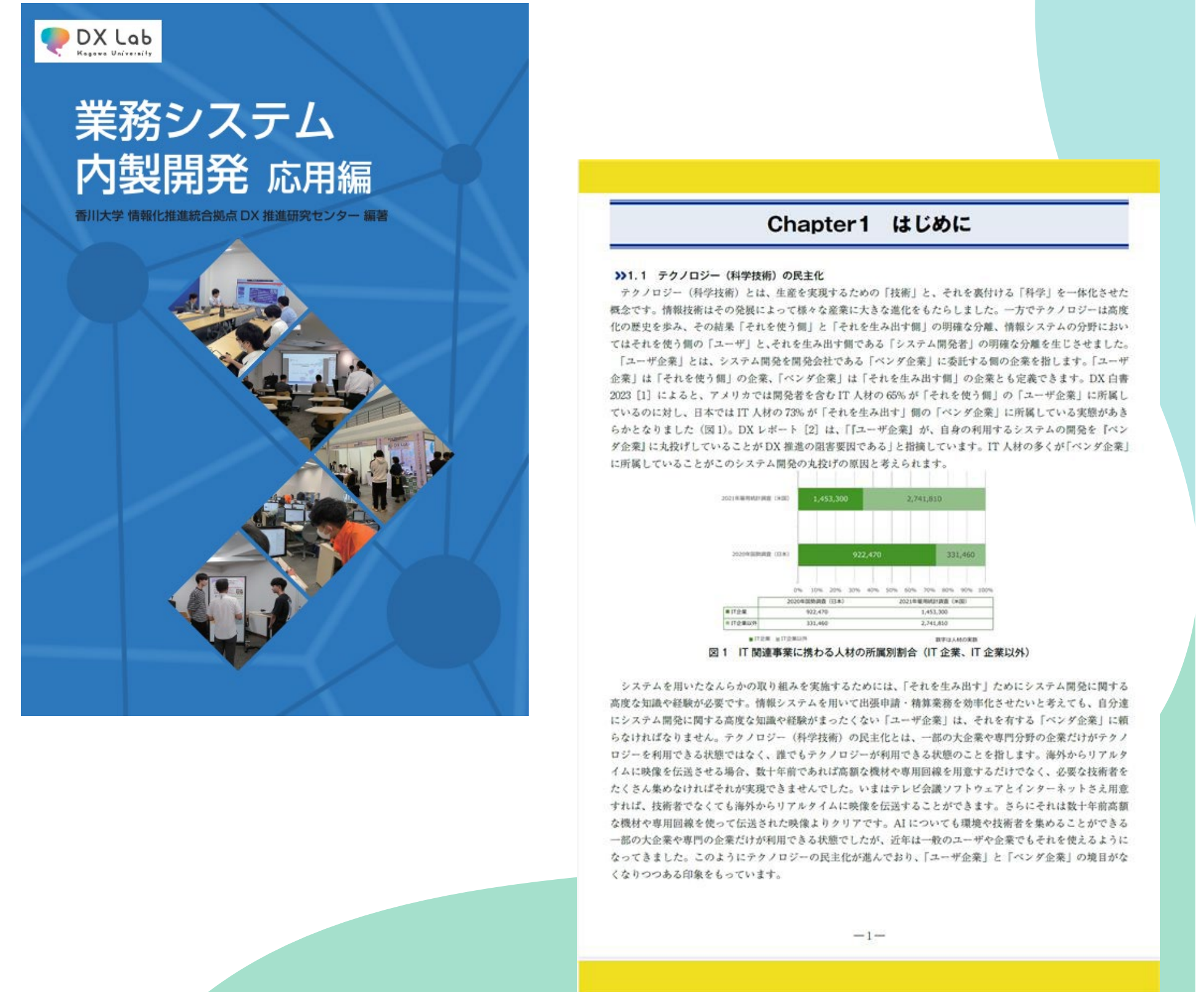


これまで約2000名（学外参加者が約1600名）が受講



開発したシステムをダウンロードできるカタログサイトを開設

「情報系の技術職員ではない一般の事務職員でも理解でき、
なんとか一人で取り組める内容で、しかも実際の業務に
できるだけすぐに使えるものにしたい」



「DXラボ」の取り組みをベースに教科書を出版

今後の活動

- ソリューションカタログには内製業務システムを順次掲載していく
- 生成AIを活用した業務の効率化、業務課題の解決や、基幹システムと内製業務システムの連携の取り組みにも取り組んでいき、それらについても得られた成果を公開していく